令和７年度　日本大学危機管理学部　個人研究費　研究実績報告書

所属：危機管理学部　危機管理学科
資格：教授
氏名：福田　充

研究課題名	オールハザード・アプローチによる危機管理学に関する実証研究
研究目的及び研究概要	「危機管理学」を構成する4つの機能は，①インテリジェンス，②セキュリティ，③ロジスティクス，④リスクコミュニケーションである。この4つの機能はあらゆる危機にあてはまる普遍的な機能といえる。かつての「安全保障」が政治や軍事に特化されていた時代と異なり，食料安全保障やエネルギー安全保障を含む経済安全保障や，情報の安全保障など多様化しているように，現代の危機管理学にも「オールハザード・アプローチ」が求められている。自然災害，大規模事故，テロリズム，戦争紛争，サイバー攻撃，感染症パンデミックなど多様な危機に対して，それら危機を予防するためのリスクマネジメントの政策のひとつとして，社会教育や政策立案，合意形成にいたる民主主義的な過程を伴ったリベラルな危機管理学が求められている。このオールハザード・アプローチのための危機管理学を構築するための理論的検討を第一に行う。 年度中に発生した自然災害や，安全保障，国民保護に関する事案について，現地におけるフィールドワーク調査のための，現地調査を実施する。そこで現地の自治体やファーストレスポンダーへのインタビュー調査やヒアリング調査を実施する。
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	今年度は，大きな自然災害が発生しなかったため，災害の被災地調査は実施しなかった。しかしながら，防災庁の設立に向けて、日本災害情報学会などの関連学会において，自然災害対策のあり方について，また防災庁の役割について検討された過程に，学会を通じて関わり，日本の防災対策のあり方について研究に関わった。また，委員を務めている東京商工会議所の「災害・リスク対策委員会」において，東京都内の所属企業におけるオールハザード・アプローチによる企業BCP（業務継続計画）の確立に委員として関わり，一定の成果を上げることができた。また委員を務める生団連においても，業界団体としての災害対策，危機管理の在り方の検討と委員会の運営に関わり，新しく有事委員会を立ち上げるなど，食品・流通業界団体との研究連携を深めることができた。さらには，内閣感染症危機管理統括庁の運営にも関わり，年度シンポジウムの開催と運営を，モデレーターとして関わり、次の新感染症のパンデミックに向けたインテリジェンスの強化とリスクコミュニケーションの充実を図るための施策を検討し，政策につなげることができた。